

05 駅前の整備方針

5-1. 方針

- まちづくりの進め方
- 駅と東西駅前広場のイメージ
- 駅と駅前空間の中期の整備方針

5-2. 個別の整備内容

- 東西自由通路・北側連絡通路
- 広場デッキ
- 新空港線との乗換空間の整備
- 東口駅前広場(中期)
＜グランドレベル・デッキ階レベル＞
- 中期整備完了時の将来イメージ図(パース)

5-3. 長期整備の概要

- 蒲田駅周辺のまちの発展イメージ(長期)

5. 駅前の整備方針

5-1 方針

まちづくりの進め方

- 平成25年に策定した「蒲田駅周辺再編プロジェクト」の基本的な考え方に基づいて駅前空間の整備を進めます。
- 現在進めている東口駅前広場の整備を「初動期」、その後の新空港線整備や駅舎・駅ビルの機能更新等と整合性を図った整備を「中期」、周辺街区整備の具体化に合わせて行う駅前広場の拡張整備を「長期」と位置づけます。

○東口駅前広場の将来目標

1. 歩行者環境改善による駅利用者の快適な利用と駅周辺への回遊性の創出
2. 交通機能の集約・再配置による公共交通利便性の向上
3. 自転車駐車場整備による自転車利用環境の向上と暫定自転車駐車場跡地の活用

【初動期整備の目標】歩行者環境の改善及び自転車利用環境の向上

【初動期】
事業中

- ・ 歩道拡幅等による歩行空間の確保
- ・ 交通機能配置変更（バス降場の一部駅前集約）
- ・ 地下自転車駐車場の整備

※一般車両の動線変更は中長期計画で実現

○西口駅前広場の将来目標

1. オープンスペース確保による歩行者環境の改善と商店街との一体的な賑わいの創出
2. 交通機能の集約・再配置による公共交通利便性の向上
3. 新空港線事業化を踏まえた交通機能の集約・再配置による公共交通利便性の向上

【初動期整備の目標】歩行者環境の改善

【初動期】
整備済

- ・ 歩行者動線の改善（駅前空間と北側）
- ・ 賑わい創出の拠点となる整備

【中・長期整備の目標】初動期整備に続く交通機能の集約化と交通結節機能の強化

新空港線整備、駅舎・駅ビルの機能更新

【中期】

- 1 デッキ階レベルのネットワーク、駅前広場、周辺街区との結節
 - ・ 東西自由通路・北側連絡通路整備（駅とまち、まちとまちをつなぐ、歩行者動線の整備）
 - ・ 駅前広場の重層利用
- 2 新空港線との乗換空間の整備
 - ・ 分かりやすい乗り換え動線、滞留空間の整備

周辺街区整備の具体化

【長期】

- 1 東西駅前広場の拡張による更なる歩行者・賑わい空間の拡充
- 2 交通機能の集約・再配置による公共交通機能の利便性の向上
- 3 歩行者と車両との交錯の回避による安全で快適な歩行者空間の整備
- 4 幹線道路からの自動車ネットワークの強化

5. 駅前の整備方針

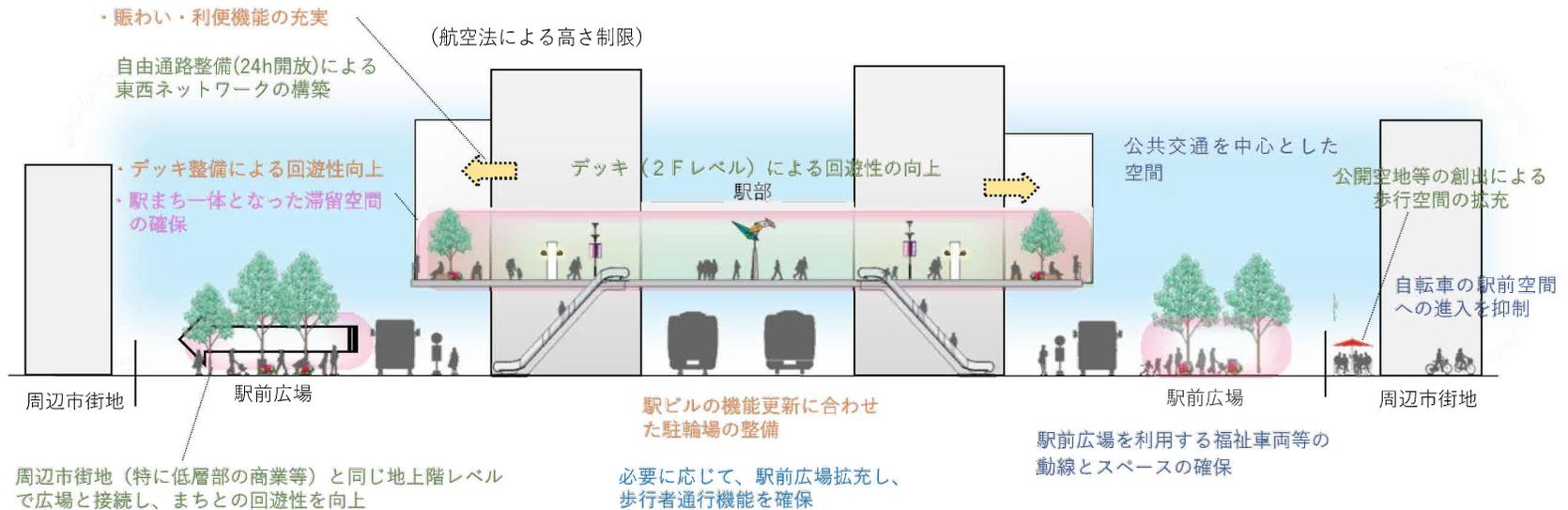
5-1 方針

駅と東西駅前広場のイメージ

東西の駅前広場とその周辺の基本的な考え方を整理します。

基本的な考え方

- 駅前広場** ・ 駅前を歩行者と公共交通を中心とした空間とする（タクシーや自動車等は分離して配置）
- 歩行者NW** ・ 橋上駅と駅ビル周辺は2Fレベルで連結し、東西や駅周辺の回遊性を高める
・ 周辺市街地（低層部の商業等）と駅前広場は地上階レベルで接続し、まちとの回遊性を高める
- 立体利用** ・ 駅前広場の重層利用によるデッキ空間の整備及び広場上空の高度利用の促進により、新たな賑わいと活力を創出する
- 滞留空間** ・ 駅にあつまる人々の多様な活動や滞留、みどりの創出や魅力ある空間を形成する



『※今後の各施設整備の検討状況などにより変更の可能性があります。また、各施設の位置や規模などは現時点でのイメージです。』

5. 駅前の整備方針

5-1 方針

駅と駅前空間の中期の整備方針

駅舎・駅ビルの機能更新や新空港線整備と整合性を図った駅前空間の中期整備により、駅まち一体となった賑わいあふれる蒲田駅を中心とする地区を実現します。

《中期のまちの発展イメージ（鳥観図）》

東西自由通路・北側連絡通路の整備（→5-2参照）

- ・東西のまちをシームレスにつなぎ、バリアフリーを確保した歩行者動線や円滑な乗り換え動線を確保します。

新空港線との乗換空間の整備（→5-2参照）

- ・誰もが円滑に快適に移動できる鉄道相互の分かりやすい乗り換え動線を確保します。
- ・新空港線整備に伴い、地上への分かりやすいアクセス動線を確保します。

駅ビルとの連携（駅前広場空間の立体利用）（→5-2参照）

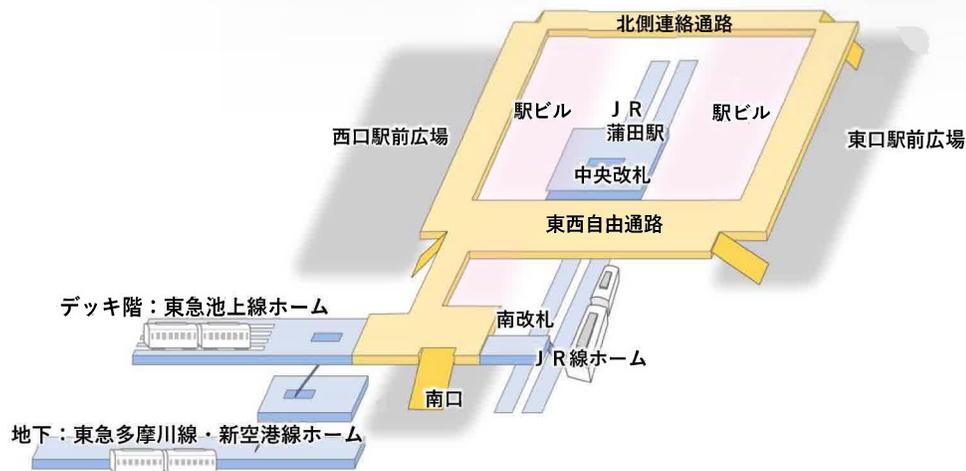
- ・東西自由通路・北側連絡通路を結ぶ広場デッキの整備によるデッキ階レベルの回遊性向上を図ります。
- ・駅前広場の重層利用によるみどり・賑わい空間を創出します。

東口駅前広場（→5-2参照）

- ・乗り換え利便性向上のため、交通機能を集約します。
- ・東西自由通路と接続する快適な歩行者動線や回遊性を高める歩行者空間を整備します。



《中期のまちの発展イメージ（駅周辺部）》



※図はイメージであり、詳細は関係者との調整を踏まえて、具体的に検討していきます。

5. 駅前の整備方針

5-2 個別の整備内容

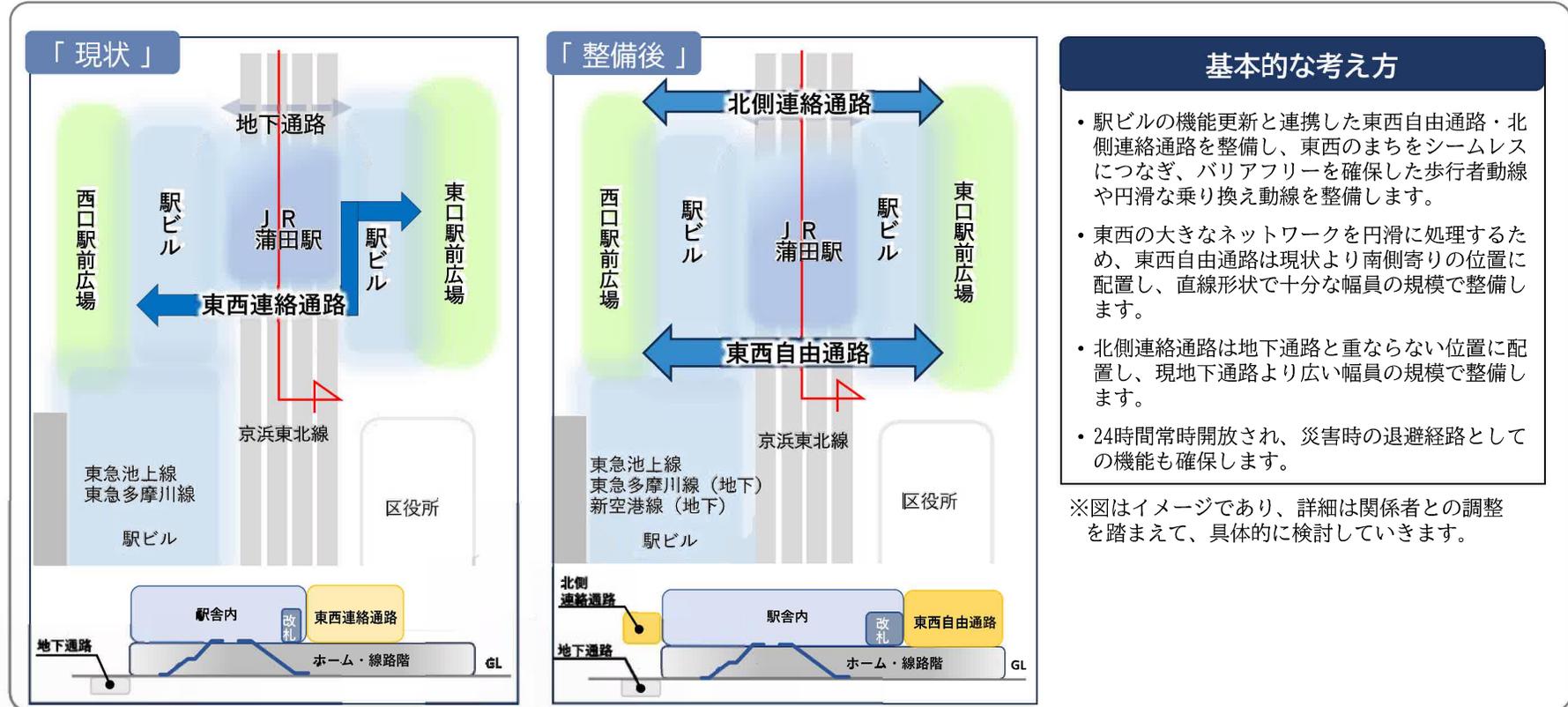
東西自由通路・北側連絡通路

新空港線整備に伴う羽田空港へのアクセス強化や今後の駅周辺のまちづくりの進展を見据え、蒲田駅東西の分断を解消し連携を高めるとともに、鉄道相互の円滑な乗り換えや回遊を実現するため、『東西自由通路』・『北側連絡通路』を整備します。

課題

- 駅利用者の増加による東西連絡通路の混雑とクランク形状の動線が、まちへのスムーズな歩行者流動を阻害している。
- 北側に位置するJR管理の地下通路は古い構造物であり、幅員が狭く、バリアフリー動線が確保されていない。
- 24時間開放の通路でないため、災害時等の駅東西間の移動が確保されていない。

線路上空を活用した『まち東西の回遊性を向上させる東西自由通路・北側連絡通路』を整備



5. 駅前の整備方針

5-2 個別の整備内容

広場デッキ

課題

- 駅を利用しない人も含め、歩行者のデッキ階レベルでの回遊性を向上させるためには、東西を結ぶ動線に加えて、南北方向の動線の強化が必要。
- 蒲田駅周辺は緑地・広場が少ない地域であり、駅周辺に魅力的なオープンスペースの創出が必要。
- 蒲田駅周辺において、災害時の一時的な退避スペース等、防災機能を高めることが必要。

基本的な考え方

① デッキ階レベルの回遊性・防災機能の向上

東西自由通路と北側連絡通路を結ぶ広場デッキを駅ビル空間に確保し、デッキ階レベルにおける歩行者の回遊性向上を図ります。また、防災機能の可能性についても検討していきます。

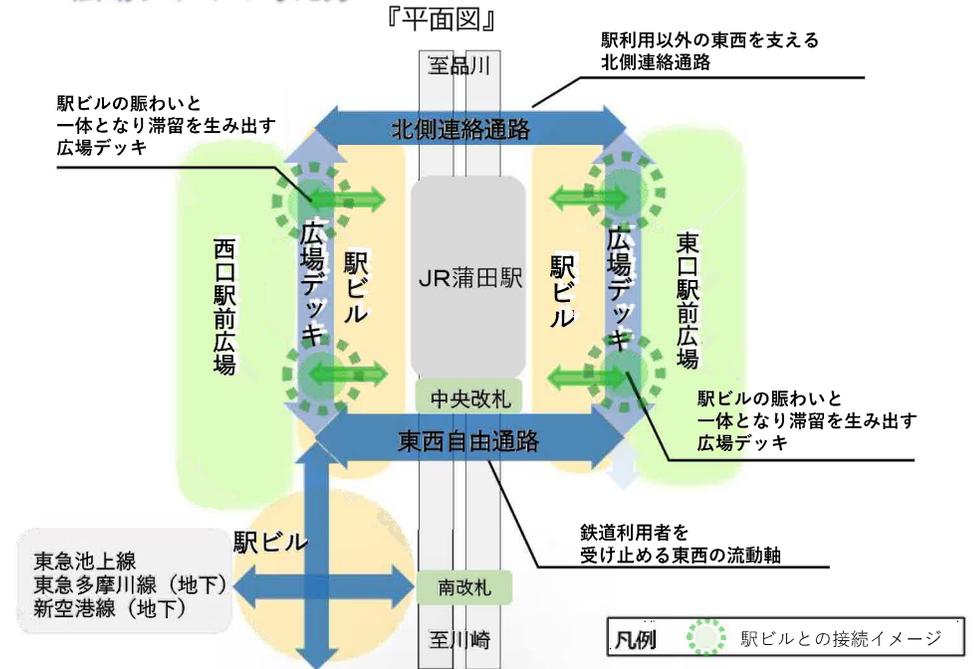
② 立体的な広場の活用

駅ビルの機能更新に合わせて駅前広場を重層的に活用し、みどりの創出や魅力ある空間を形成します。

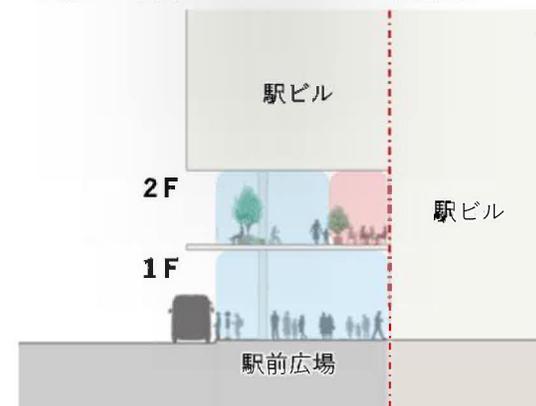
③ 魅力ある空間の創出

立体的な広場空間の上部は、駅ビル空間等として活用し、公民連携により駅ビルの機能更新や魅力向上を図ります。

広場デッキの考え方



『広場デッキ及びグランドレベルの断面イメージ』



※図はイメージであり、詳細は関係者との調整を踏まえて、具体的に検討していきます。

5. 駅前の整備方針

5-2 個別の整備内容

新空港線との乗換空間の整備

課題

- 新空港線整備や駅周辺の機能更新により、国内外から観光やビジネス目的などで初めて蒲田を訪れる人への対応。
- 東急多摩川線や新空港線のホームが地下階になることに伴い従来のアクセス動線や乗換動線が変わることから、分かりやすく魅力的な乗換空間の創出。
- 周辺開発等に伴う来街者の増加を考慮した歩行環境の更なる改善と、駅の魅力や拠点性の創出。

基本的な考え方

① 利用者が快適に移動できる乗換空間の整備

利用者の流動に十分に対応した幅員の確保や、分かりやすく視界が良好な乗り換え動線、統一された案内表示を検討し、初めて蒲田を訪れる人にとっても快適に移動できる乗換空間の創出を図ります。

② 駅まち空間の魅力向上

公民連携により、駅ビルの機能更新と合わせた乗換空間の魅力向上を図ります。また、賑わいをまちへ波及させ、訪れる人々が何度でも足を運びたくなるような魅力的な「駅まち空間」を創出します。

視界良好な乗換動線、統一された案内表示による快適な乗換空間の創出



来街者が再訪したくなるような魅力的な駅まち空間



整備の方向性について

快適に移動ができる乗換空間の確保

- 『東西自由通路から南方向への動線』および『東急線からJR南改札方向の動線』の動線交差部における、歩行者の安全な回遊性を確保する

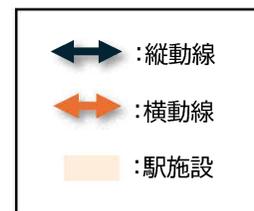
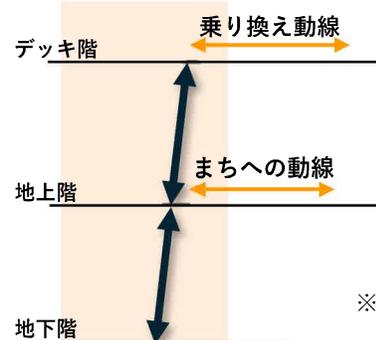
まちとの接続

- 新空港線整備による高架から地下への切り替えに伴い、地上への分かりやすいアクセス動線を確保する

乗換空間イメージ



【断面イメージ】



※図はイメージであり、詳細は関係者との調整を踏まえて、具体的に検討していきます。

5. 駅前の整備方針

5-2 個別の整備内容

東口駅前広場（中期）＜グランドレベル＞

東口駅前広場は、駅ビルの機能更新や東西自由通路及び北側連絡通路と一体となった整備を進めるとともに、駅前広場に接する道路の歩行者空間への検討や周辺開発との連携により、更なる歩行者空間の拡充を図ります。



※図はイメージであり、詳細は関係者との調整を踏まえて、具体的に検討していきます。

5. 駅前の整備方針 5-2 個別の整備内容

東口駅前広場（中期）＜デッキ階レベル＞

東西自由通路と北側連絡通路を結ぶ広場デッキを駅ビル空間に確保し、デッキ階レベルにおける歩行者の回遊性向上を図ります。広場デッキは、駅ビル空間等として活用し、みどりの創出や魅力ある空間を形成します。

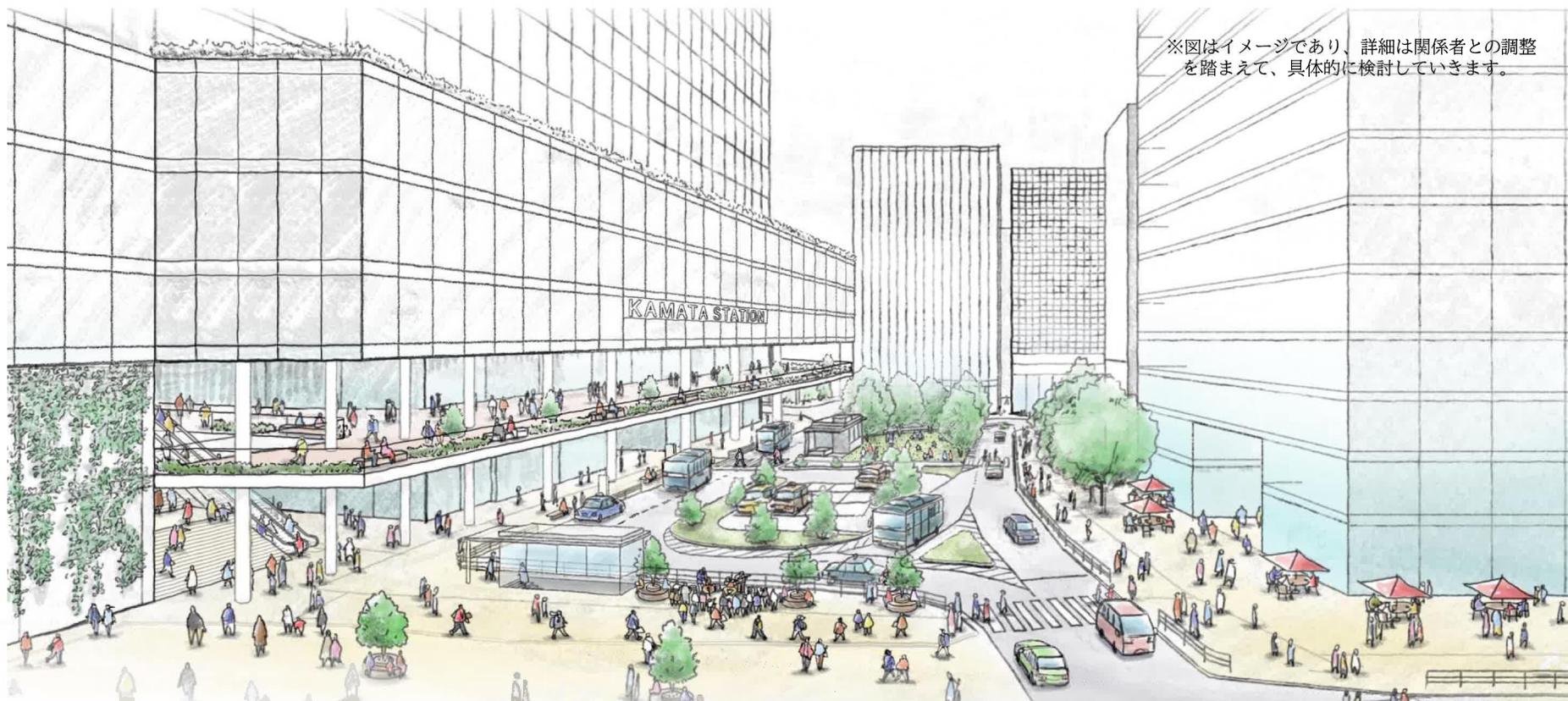


※図はイメージであり、詳細は関係者との調整を踏まえて、具体的に検討していきます。

5. 駅前の整備方針 5-2 個別の整備内容

中期整備完了時の将来イメージ図（パース）

東口駅前広場の中期整備完了時点での駅前空間の将来イメージ図（絵姿）です。駅まち一体で賑わいあふれる駅前空間を実現します。



※図はイメージであり、詳細は関係者との調整を踏まえて、具体的に検討していきます。

*豊かな歩行者空間が広がります！

蒲田駅東西を結ぶ東西自由通路の足元から、安全で快適な歩行者空間が都市骨格軸方面に向かって広がります。まとまった歩行者空間では、ベンチに腰を下ろして思い思いの時間を過ごし、パフォーマンスやイベントなどにも活用できる賑わいの場所になります。

*デッキ階レベルに憩い佇めるみどり空間が生まれます！

デッキ階レベルには、東西自由通路から連続した歩行者空間が広場デッキとして駅ビル内に誕生します。広場デッキはみどりも確保された憩い佇める空間となり、家族や友人との待ち合わせや駅ビル内の店舗からテイクアウトして、ちょっと一息つくことができます。

*傘を差さずにバスやタクシーに乗れます！

駅ビルに面する1階歩道部にはデッキが駅前広場に張り出してくるので、傘を差さずにバス・タクシーを待つことができ、快適に利用することができます。また、日よけにもなるため、日差しが厳しい夏場でも心地よく利用できる空間になります。

5. 駅前の整備方針

5-3 長期整備の概要

蒲田駅周辺のまちの発展イメージ（長期）

蒲田が将来にわたって持続的に発展していくため、長期的に計画・調整していく内容を整理します。実現に向けて、引き続き、駅周辺街区の開発の進展を見据えた関係者との協議・調整を進めてまいります。

